

学力向上アクションプランチェックシート〔改訂版〕

(実態把握<5月末>・**中間チェック<9月末>**・最終チェック<2月末>)

(相知小) 学校

項目	チェック内容	A	B	C	D	現状と課題	今後の取組み	
①	教育課程 カリキュラム・マネジメント ※教科等横断的な視点で教育内容を組織し、PDCAサイクルを確立しているか。		○			国語科・算数科を中心に教科横断的なカリキュラム・マネジメントを進めているが、全ての教科・領域までは広がっていない。また、地域行事・地域ボランティアの活用や人権・同和教育の視点での見直しが必要である。	主に人権・同和教育と道徳の連携や、生活科・社会科のバス旅行における国語科のメモを取るか、事後学習での新聞やポスター制作など、関連付けの力・相手意識もつか・まとめる力を育てていきたい。	
②	単元 単元の学習過程 ※単元等のまとまりで問題解決的な学習過程を仕組んでいるか。		○			国語科・算数科の他にも、理科・社会科において単元の学習課題が設定されるようになってきた。しかし、学習課題の内容をみると、児童の興味本位で設定されたものもあり、実生活の問題意識を基にした課題設定を意識させたい。	今後は国語科・社会科・算数科・理科以外の教科にも広げて、単元全体を通して課題解決学習を設定していきたい。また、単元学習で学んだことを他者に発信するなど、相手意識をもって課題解決に臨ませていきたい。	
③	1 単位時間 課題提示 学習活動（課題解決） 評価	単元全体の見通しと現在地の把握 ※児童生徒に学習の道筋を理解させているか、前時の復習をさせているか。			○	校内研における理論研修を通して単元及び各授業の導入における具体的な進め方を共通理解している。授業の見通しはできているが、前時の復習は時間の関係上あまりできていない。	単元の学習課題だけではなく、その課題達成のためにどんな資質・能力が必要かといった視点についても意識させる。習熟学習の時間も朝のスキルトイを計画的に実施することで徹底を図る。	
④		本時の学習課題の把握 ※児童生徒に解決すべき本時の課題を明確に把握させているか。		○		各授業における導入を工夫し、児童に課題（問題）意識を明確に持たせている。スムーズに自力解決に入れるような「見通し」の持たせ方に課題がある。	実際の生活場面から問題意識や切実感をもちながら各単元における導入・学習課題設定等を行うなど、児童自らが学習課題づくりに取り組めるような手立てを図る。	
⑤		個別の課題解決学習（Personal Work）* ※課題解決の時間や場を確保しているか。		○		各教科において、個別の課題解決学習の時間を確保している。既知の学習内容を想起できるようなノート・ワークシートの例を職員に示し、共通理解を図っている。	全教科等にわたって1単位時間の思考の流れが分かるワークシートの開発やノート指導の工夫をしていく。問題の条件に合わせてながら筋道立てで説明できるようなワークシートの様式を数パターン作成し、問題によって適宜使い分けさせる。	
⑥		グループによる課題解決学習（Group Work）* ※課題解決に向け、複数意見からひとつの意見にまとめるような話し合いの場を仕組んでいるか。			○	各個人の考えの紹介を一人一人報告させる「発表型グループワーク」ではなく、ノート・ワークシートを中央に集め、分類・整理させながら意見（気付き）を交流させる「発見型グループワーク」に移行させている。	引き続き「発見・探求型グループワーク」にシフトさせていく。低学年において基本的なグループワークの流れや思考パターンを定着させ、中・高学年において、課題に応じたグループワークの進行・方法を主体的に行えるようにする。	
⑦		クラスによる課題解決学習（Class Work）* ※各グループの意見を生かした話し合いを仕組んでいるか。			○	グループワークと同様に複数の考えを分類・整理させながら意見（気付き）を交流させる「整理型クラスワーク」にシフトさせていく。クラスワークでの気づきが本時のまとめ（一般化）につながらない場面もみられる。	グループワークと同様に複数の考えを分類・整理させながら意見（気付き）を交流させる「発見・探求型クラスワーク」にシフトさせていく。クラスワークでの気づきが本時のまとめ（一般的・汎用的な知識及び技能）につなげていくようにする。	
⑧		教師による解説、解決、解答 ※児童生徒の学びを深め、理解不足を補う説明を行っているか。		○		本時のまとめを照らし合わせ、理解が深まっていない内容については、教師から再度補説を行い、本時学習内容の確実な習得を心がけている。グループワーク・クラスワークで時間を使いすぎて、補説の時間を充分とれないこともある。	1単位時間の学習の流れと、それぞれの活動にかかる時間を設定し、時間内にそれぞれの活動がきちんと収まるように授業を進めていく。そうすることで、教師の補説の時間をしっかりと確保する。	
⑨		子どもの最終的な記述（表現） ※本時の学習課題と対応した記述（表現）をさせているか。			○	授業の中で児童自身が学習をまとめることについては、定着してきたが、「まとめ」の文章に本時の学習内容についての記述が十分に書かれていないことがある。教師の適切な補説の在り方や「まとめ」までのクラスワークの進め方の改善が必要。	各学習過程の設定時間内で活動を進めるように指導を徹底し、考えの修正の時間を確実に確保する。パーソナルワークで無答だった児童も必ず解答を完成させるよう指導を強化する。	
⑩		学習の振り返り ※学んだことの整理や自己評価の場を設定しているか。		○		振り返りのポイントを設定し、学年の発達段階に応じた振り返りを行っている。しかし、毎時間振り返りの活動は確保しているものの、振り返りの観点が曖昧になっているときがある。	振り返りの観点を明確に設定し、各学習において「何を学んだか」「何ができるようになったか」「どのように学んだか」といった点について具体的な成果を自己評価できるようにする。	
⑪		条件に応じた記述（書く力） ※条件付きの書く活動を授業の中に仕組んでいるか。			○	キーワードや行数指定などの条件把握だけでなく、資料や問題文を正しく読み取る（読解力）学習も併せて行っている。問いに対して、資料の文章を適切にまとめる活動を意識的に組み込んでいく必要がある。	問題の情報や問いから「どの内容を書けば十分な正答になるのか」といった視点で読解していく意識を育てていく。併せて教師自身も解答演習を行い、それぞれの問いに対して具体的などんな記述をしていけばいいのかイメージする。	
⑫		その他	言語活動を活発にする教育環境 ※学習活動を活発にするために掲示物等の教室内外の環境を工夫しているか。		○		校内の児童の目に触れる場所に言語活動を助けるポイントシートを掲示している。また、実際に単元の終末に活動した言語活動（ブック・ポスター・感想文）の作品などを掲示することで、学習意欲が高まってきている。	低学年のうちから発音・朝・帰りの会などにおいて英語活動に自然に触れさせることで、いつの間にか耳に入るようにする。また、英語に対する抵抗をなくし、ALTとの連携を密にしたい。
⑬			ノート指導 ※学校や教師の指導の意図を反映させたノート指導を行っているか。			○	ワークシートについては、「前時までの学習」「本時の流れ」「本時の課題」「めあて」「まとめ」「振り返り」を共通して入れるようにしている。ノートの形式を示したが、全学年に浸透しているとは言えないので、時間をとって研修を行っていく。	「前時までの学習」「本時の流れ」「本時の課題」「めあて」「まとめ」「振り返り」など、必ず入れる項目については、全学年統一する。また、「ワークシート・ノート指導法」の校内研修を実施し、学年間のつながりを持たせたノート指導を研究する。
⑭	学習規律 ※児童生徒に学習規律を理解させ、主体的に守らせようとしているか。				○	相知町小中連携教育委員会で作成した「かっ・つ・お」の約束を軸にしながら指導を行っている。自分で課題を設定し、計画を立てさせることにより、学びに向かう主体的な姿勢（心構え）を定着させている。	各学級ごとに児童の実態を随時調査し、「相知小学校学習のきまり」について適宜内容の改善を行う。全学年一貫した指導を継続して行い、全職員が同じ指導を行うことで、指導内容に説得力をもたせる。	
⑮	家庭学習 ※単元の指導内容や方法と結びつけた課題を出しているか。				○	宿題の出し方についても研修を行い、それまでの既習事項や活用力が定着するように内容の吟味を行った。保護者へも「学年×10分+10分」の家庭学習時間の徹底を啓発していかなければならない。	引き続き、講演会や説明会を通じて保護者への啓発を継続し、「学年×10分+10分」の家庭学習時間の徹底を図る。また、宿題の出し方についても研修を行い、単なる作業的な内容にならないような内容の吟味を行う。	
⑯	学習内容の定着 ※学年間・小中間における教科の系統性を見直し、復習の時間を計画的に仕組んでいるか。				○	1学期と夏季休業中にも各教科の年間カリキュラム見直しを行い、各単元ごとに基礎的・基本的な学習内容の定着を図る活動を組み入れた。しかし、定着を図るまでの充分な時間は、まだ確保できておらず、放課後の補習等に依存している面もある。	担任自身が、学習面における児童の実態を正確に把握し、適切な宿題を設定することが重要である。そのためにも、各種調査結果を有効に活用し、改善すべき単元・領域・観点を明確にし、宿題作成に反映させていく。	
その他の取組み								

* PW・GW・CWについて順序性はない。授業のねらいと児童生徒の実態に応じて組み合わせる。